

ふしみサラダボール子育て情報

「小さな体験」

令和5年9月27日号

板橋富士見幼稚園



幼児期に五感をしっかり育てる

9月26日朝のNHKで“乾杯”を歌っている長渕剛さんが、鹿児島県霧島市で小学生や幼児に向けて、「自然塾」を開設した様子が放送されていました。自然塾では自身が幼少期を過ごした鹿児島での自然体験を是非味わってもらいたいと、都会では経験できない体験を紹介していました。その中で、幼少期の五感の育成の重要性を強調されていました。きっと長渕さんは自身の歌や歌詞が幼少期の自己の体験の中から生まれていることに気づき、今こそ自然体験が重要であることを、デジタル社会を生きる子ども達に伝えたいのだと思います。

自然体験は、ひとり一人の感じ取り方の違いによって受け止め方も変わります。仲間と一緒に体験し、それぞれが感じたことを語り合いながら遊びを進めることで、多様な感じ方があることに気づいていきます。そして思考が一面的ではないことを知っていくのです。

他者との間に感じ方・考え方など色々な違いがあることに気づくと、そこから様々な「加減」を学び取ることができます。「加減」ができるようになると、他者との関係の中で気持ちを調整する力が生まれていくのです。これは人間関係を築いていく上でとても重要な力になります。

現在のデジタル社会では、簡単に様々な情報を受け取ることができますが、同時にその情報を疑わずに全て正しいと感じ取ってしまう危険があります。この危険に陥る要因の一つに、体験の不足によって思考が一面的になっていることがあげられます。



心身の発達が著しい幼児期の3年間は、自然の中で多様な出会いと向き合い、思い巡らせ、他者の考えにたくさん触れながら、五感を研ぎ澄ませていく体験を重ねていくことが大切です。



【大きくなったコイの赤ちゃんを水槽から池にお引越ししました】